

学校公開デー

1月26日（土）の学校公開デーにはたくさんの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。また、県内外から42名の方が来校され、盛会のうちに終えることができました。

この学校公開デーは、本校の教育活動や学校施設を公開することにより、地域社会に本校教育及び聴覚障がい者の理解啓発を図ることを目的として行っています。案内先は九州地区の特別支援学校・聴覚特別支援学校・交流校等の学校教育関係、地域の手話サークル、本校のある高良内校区及び近隣の東国分校区等です。なお、高良内校区、西国分校区及び東国分校区は、回覧板に学校公開デーのお知らせを挟み、地域の方々へ周知を図りました。新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」を実現していくためには、「社会とともにある学校」づくりが求められています。本行事を通して、子どもたちが社会や世界に向き合い、関わりながら自らの人生を切り拓（ひら）いていくために必要な資質・能力を育む機会になれば良いと考えています。

幼稚部・小学部 授業公開



<授業公開アンケート(外部の方)>

- 元気いっぱい、のびのびと学習していたのが印象的だった。
- 日頃の様子を実際に見る機会がないので、大変勉強になった。
- 先生や友達とかかわりながら、やり取りが進められていて、良い雰囲気だと思った。
- 体験を通してのやり取りは、子供たちも興味をもって参加していたので素晴らしいと思った。
- きめ細やかな支援がいたるところにあり、日々の積み重ねが見えた。
- 音楽発表会での子供たちのはじけるような笑顔が印象的だった。
- 明るく生き生きとして素晴らしかった。とても楽しそうだった。

中学部 校内弁論大会

弁論大会の原稿は、生徒それぞれが、学級担任等と何度も話し合いながら作成します。テーマは自分の障がい、家族との関係、友達との関係、地域社会との関係など多岐にわたります。生徒たちにとって、弁論大会の原稿を練り上げていく作業は、自己の障がい認識を深める大変良い機会となっています。

今年度は、中学部生徒16名が、体の向きや手話の表現の仕方等工夫しながら、それぞれの熱い思いを伝えました。審査員をはじめ、会場の方々も大変感心されていました。どの弁論も素晴らしく、甲乙つけがなかったのですが、受賞者は次の5名となりました。おめでとうございます。

- 最優秀賞 2年 石河 大地さん 2年 矢ヶ部 真衣さん
- 優秀賞 3年 三栗野 未也さん 2年 竹下 愛萌さん
- 審査員特別賞 3年 井上 琴葉さん



なお、前日のリハーサルは久留米信愛中学校1年生、本番は久留米市立明星中学校の生徒会のみなさんに参観していただきました。休憩時には積極的に交流を楽しみ、好きなアイドルの話題などで大変盛り上がっていました。

<中学部 校内弁論大会アンケート(外部の方)>

- 一人ひとりの熱意を感じた。(今までの努力、思いを先生方が引き出されたのだと思った。)
- 心打たれる発表ばかりだった。
- 発表した生徒たちの顔が生き生きしており、とても良い行事だと思った。
- 地域の中学生とも積極的にかかわっており、自分の生徒たちも参加できたらと思った。(教育関係者の方から)
- 手話を広めたいという気持ちは、みんなの共通の気持ちだと思った。
- 弁論大会をいつも楽しみにしている。手話スピーチコンテスト等もあるのでそれにもつながっていくと良いと思った。(手話の会の方から)
- 手話を覚えたいと思った。(教育関係者の方から)
- 手話の弁論大会を初めて見た。一生懸命伝える姿から、手話に興味をもった。

チャレンジド

本校には、聴覚障がいと他の障がいを併せ有する子供たちが在籍しています。そのため、保護者同士の情報交換や進路関係の相談の場として、また研修の場として、毎年2回「チャレンジド」を行っています。本年度2回目の「チャレンジド」は、福岡県教育委員会より名嶋圭指導主事にお越し頂き、『子供の学びを支える支援・指導』というテーマで御講演いただきました。身体の発達に応じて、何歳くらいでどのような能力が身に付くのか、また、学習の基礎としてどのような力が大切なのか、姿勢や書字に課題がある子供にはどのような視点が必要なのかなど、具体的な事例や支援の仕方を交えながらお話し頂きました。重複障がいの子供のみならず、全ての子供たちの発達を考える際の参考になるお話でした。

<チャレンジドアンケート>

- 自分の子供のこれまでを振り返る良い機会になりました。このような時間を作っていただきありがとうございました。(保護者)
- 学校は子供一人一人を大切にしながら「教育」をする場であることを再確認しました。ありがとうございました。(職員)